

# 田尻だより

平成 20 年

1月 号

Vol. 58

次回の田尻便りは  
2月発行予定!

新年、明けましておめでとうございます。

田尻は雪のお正月でしたが、その後は穏やかな日が続いております。

昨年は冬に全く雪が降らず、春先に不安を感じた年でしたが、幸

いにもよい収穫を迎えることができました。

今年も良い作となるように、祈るばかりです。

10月末に予定していたさくらの七五三が、12月までずれこみまして。



その間、さくらはぐんぐん成長したようで、気づけば着物がつつつるてんに。

「増えている? マガン」  
穏やかな日差しの中、

頭上では大きな陣形を作つてマガンの群れが飛んでいます。一月と

いうのに、まだ群れは大きいままのようです。この時期、マガンは

小単位の群れで各地に分散するのが普通です。

蕪栗沼でも越冬数は常に一定ではなく、沼が凍結すると伊豆沼などにねぐらを移したり、

強い寒波や積雪の時には南下したりします。

分散するとは言つても、保守的なマガンは県外では殆ど越冬しません。他県で観察される数百〜数千羽といった越冬数は、蕪栗沼や伊豆沼では誤差の範囲に過ぎないそうです。

今期の蕪栗沼はマガンの数が非常に多く、十二月には過去最高の7万4千羽を数えたそうです。集中の原因は不明ですが、観察者には見がいのある年とも言えるのかもしれない。

着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。



襦袢はともかく、着物ははるかに、着物の縫いものに四苦八苦した、七五三でした。

## 未 暦 ~こめごよみ~

(農閑期のため、お休みです。)



絵と文/小野寺ひかる

## 嫁日記

12月18日、戌の日を迎えたので、ケガだ熱だと延び延びになっていた娘の七五三とあわせて、神社でご祈禱をしていただきました。

\*\*\*

今でこそ、出産も子供の成長も当たり前といった風潮ですが、昔は女性の死亡原因のトップは出産でしたし、

子供も7歳まで「神の子」と呼ばれ、いつ死んでもおかしくないと言われていました。安産の祈願も節目のお祝いも、「生」と「命」に対する深い感謝と祈りがあってこそ。

\*\*\*

「その気持ちが大事なんだから!」という前向きな気持ち(言い訳?)で、遅れに遅れた娘の七五三を、ようやく何とか終えたのでした。